令和3年4月1日から 溶接ヒューム等は特定化学物質 として規制対象となります

労働安全衛生法施行令、特定化学物質障害予防規則等が改正され、金属をアーク溶接する作業等(以下「金属アーク溶接等作業」という。)において、金属アーク溶接等作業に係る溶接 ヒューム等へのばく露を防止するための措置の実施が必要となります。

労働者の健康確保等のため、計画的に準備をお願いいたします。

1 溶接ヒュームへのばく露防止関係で実施が必要な事項

- ア 溶接ヒューム等に係る作業又は業務について、作業主任者の選任
- イ 金属アーク溶接等を行う屋内作業場については、全体換気装置による換気() プッシュプル型換気装置及び局所排気装置でも可。
- ウ 金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場において、
 - 新たな金属アーク溶接等作業の方法を採用しようとするとき 又は
 - ・金属アーク溶接等作業の方法を変更しようとするとき()
 - は、あらかじめ、従事する労働者の身体に装着する試料採取機器等を用いて作業場の空気中の溶接ヒュームの濃度の測定()

溶接材料、母材、溶接場所の変更も含む。

第一種作業環境測定士、作業環境測定機関による測定。

評価基準は「マンガンとして0.05mg/m³」

- エ ウの結果に応じて、換気装置の風量の増加などの措置()
 - 溶接方法、母材や溶接材料の変更による溶接ヒュームの低減、集じん装置による集 じん又は移動式送風機による送風の実施でも可。

当該措置を実施した場合、作業場において空気中の溶接ヒュームの濃度を測定。

- オ 金属アーク溶接等作業に労働者を従事させるときは、当該労働者に<mark>有効な呼吸用保護具を使用させる</mark>こと。
- カ 金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場において、労働者を金属アーク溶接等作業に従事させるときは、1年以内ごとに1回、定期に、呼吸用保護具(面体を有するものに限る。())が適切に装着されているか確認し、その結果を3年間保存() フード形、フェイスシールド形等の呼吸用保護具は除くという趣旨。

確認を受けた者の氏名、確認の日時、装着の良否が含まれ、外部機関に確認を委託 した場合は、受託者の名称等が含まれる。

- キ 作業場の溶接ヒュームの濃度を測定したときは、その結果を都度記録し、当該測定に係る金属アーク溶接等作業を行わなくなった日から起算して3年を経過する日まで保存。
- ク 金属アーク溶接等作業を労働者に従事させるときは、当該作業を行う屋内作業場の床等 を、水洗等によって容易に掃除できる構造のものとし、水洗等粉じんの飛散しない方法で 毎日1回以上掃除すること。()

超高性能(HEPA)フィルター付きの真空掃除機による清掃を含む。 使用時は粉じんの再飛散に注意。

○経過措置等

ア、エ~キ・・・令和4年3月31日まで猶予、ウ・・・令和3年度中に実施

- 2 健康診断の実施
- 金属アーク溶接等業務に係る作業に従事する労働者について、<mark>雇入れ又は当該業務への</mark> 配置換えの際及び6月以内ごとに1回の医師による健康診断の実施。



	令和2年度	令和3年度	令和4年度~
事業者	【準備アーク溶接者の選手性者の選手性者の関係を表す。 「全属の検討・屋子をでは、一個ででは、一個ででは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、	「法令事項」 ・継続的に 金行中の溶に 金行中の溶に を行う中の溶に を行う中の溶に を一クに を一クに を一クに を一クに を一クに を一クに を行り、 でので を行り、 でので を行り、 でので を行り、 でので を行り、 でので をでする。 でので でので でので でので でので でので でので でので でので での	【法令事項】 ・作業主任者の選任 ・作業場内の溶接ヒューム濃度に応じた換気 ・金属アーク溶接等作業に従事する労働者に呼吸用保護具を装着させる ・その他、1及び2で言及されていること全て
作業環境	・個人用サンプラーによる作業環境測定ができるよう、研修等による準備	・金属アーク溶接等作業 を行う屋内作業場での 空気中の溶接ヒューム 濃度の測定(年度内、個 人用サンプラーでの測 定)	·同左
医療機関	・金属アーク溶接等作業に係る健康診断の準備	・金属アーク溶接等作業 に従事する労働者への 健康診断の実施	·同左

